

- 1 序章：イスラエル(ユダヤ金融資本)、サウジ(スンニ派)、オサマ vs. イラン(シーア派)の複雑な利害関係あり。アメリカ(福音派)はイスラエルを応援している。イエスの復権。
- 2 ロウハニ：サウジ石油施設攻撃をイラン政府が命じるわけが無い。サウジの自作自演、イスラエルの陰謀、アメリカの自作自演だってある。イラン内部の異端分子の可能性も。
- 3 トランプは来年の選挙を考えている。早く戦争が終わり過ぎたら、票に繋がらない。今回もタンカー攻撃も、罠である。サウジ王室とイランの指導者とは宗教性で本質的に違う。
- 4 中国の政策に協力するのは？石油を買ってくれないと、国家存亡の危機が来る。矛盾あり。
- 5 オサマの9.11はサウジに米軍基地があることへの原理主義的反対かも。石油利権が絡む。
- 6 イランとイスラエルは過去に同盟関係あり。バビロン捕囚(イラク)のユダヤ人を救出し、神殿の修復まで手伝ったのはイランのキュロス大王だった。それを庶民は知っている。
- 7 過去世は足利尊氏の弟直義。ロシアにも勝った日本を尊敬している。日本の正義を示せ。
- 8 ハメネイ：今世紀中に信者数でキリスト教を超える。それにはイスラムの盟主が必要。この世でも、信仰者が権利の行使で優遇されるべき。政治家選びにも道徳性が必要である。
- 9 全国民が宗教則に従っていることは、この世が天界に極めて近いことを意味している。
- 10 中国に石油を売らない方がいいと思うが、国民の生活もあるから、難しい関係にある。
- 11 イスラムはキリスト教もユダヤ教も認める寛容な教えだ。真のイスラムを誤解している。
- 12 イスラエルは1948年、中国は1949年に建国。世界の仲間入りするには、分を守れ。
- 13 モーゼの神よりアッラーのほうが全智全能である。自分はアッラー、エルカンターレの弟子である。アメリカはユダヤに入られすぎ、でも戦争を始めたら、ハリネズミになって戦うしかない。イランはテロ国家だとアメリカは扇動しているが、発信者はネタニエフだ。
- 14 福音派のイエスの復権思想(ヨハネの黙示録の解釈)は、迷信だ。麻薬中毒者の預言書。イスラエルは韓国みたいな変な国で、神はいない。ネタニエフはヤハウェを名乗るかも。
- 15 安倍首相が中国建国70周年にビデオを送った。二股膏藥だ。観光客と購買客減を心配。
- 16 石油が絡んでイスラム圏のウイグルに何もいえないのはつらい。言えるのは日本しかない。日本神道は霊格が高い。先の大戦で四海同胞の世界建設を目的にしたこと、証拠あり。
- 17 前世はアブー・バクル(初代カリフ)、北条時政(政子の父初代執権)、黒木為楨。スンニ
- 18 ホメイニ：ホメイニ革命は、石油の富を福音としてイスラム文化のルネッサンスを目指した。過去はギリシャを攻めたダレイオス、スレイマン一世。大日靈貴が女性のときの夫で将軍。徳川秀忠。イスラムと日本神道は同根。日本頑張れ。我々の神はエローヒムだ。
- 19 総裁先生：イスラエルは世界を引きずり回し過ぎている。日本は化石燃料に頼りすぎるリスクを知るべし。アメリカは中国、イランの歴史を知らない。戦争回避のためにイランは少し用心しないと危ない。日本は自衛隊の派遣が必要、そうしない意見が言えなくなる。
- 20 ホメイニ：パーレビ国王は金目当てでサウジみたいな国が目的だった。米国の犬だ。
- 21 サウジ王室は自国の油だけに關心があり、ライバルを倒し、利権と金で世界中の政治権力を動かす意図あり。サウジの王室は無くすべき。宗教のルーツはサウジじゃなくイラン。
- 22 人はこの世での修行や徳や人々の支持によって上に上がるべき。個人主義が蔓延し、信仰心がなくなっている日本、元のほうが良かった。秀忠後に大奥完成、大奥はイスラムだ。
- 23 多婦性は安易な離婚を避ける目的もある。価値観を戦争で解決するのはおかしい。ゆっくりと改革したい。イスラム教徒にアッラーの地上誕生が伝わったら、世界革命ができる。